2.調査設計:捕捉

■ 調査設計にあたっての捕捉

本報告で使用したデータは前述のとおり、相談業務の集計という目的のために収集された2次データ(secondary data)であり、調査上の必要性にあわせて収集されたものではない。そのため、入手した2次データは注意深く評価する必要があると考え、以下の点を慎重に評価した。

① データはどれだけ正確か
② データの狙いは目的は何だったのか

検討の結果、今回の目的である小児救急の課題・ニーズを解明するには、本データだけでは考察には不十分であると結論づけた。なぜならば、冒頭に述べたとおり、2次データ収集の目的が課題・ニーズの抽出ではなく、相談者のプロファイリングが中心とされているものだからである。

だからといって、考察ができないわけではないとも考え、内部データ(internal data)である本データと外部データ(external data)である2次データ(医療施設(静態・動態)調査・病院報告　等)との突き合わせを行い、解釈を行うことも検討した。 が、そもそも母集団が異なるサンプルを突き合わせることは、統計処理上信頼性に耐えられない可能性があるという結論に至った。異なるサンプルを比較検証することは考察する上では有意であるかもしれないが、データ処理における恣意性につながるリスクがあると判断した。

しかしながら、統計手法を配慮をしているばかりでは、解釈・考察の新しい水平をのぞむことはできない。そのため、ばらつきがあるデータ(各県別)の結果を解釈するのではなく、人口規模と時間という変数を使ってデータ自体を定量的に再構成した上で、把握することにした。つまり、相談者という母集団の一部(＝100万人単位での出現率)をサンプルとして、ばらつきがあるデータ記述をならした上で、比較検証、及び考察をする方針を決めた。以降がその結果であり、新しい視座、解釈への一助となる報告となったと自負している。但し、小児救急の課題・ニーズを抽出するという目的に整合的・合理的な結果を導くには、その目的達成のためのデータ収集が必要であり、次年度以降の実現が望まれる。

3.調査結果と考察

【1】調査対象

調査対象期間:2012年1月1日(日)0時～2012年12月31日(月)24時

調査対象県:12県(上記対象期間を通して#8000相談事業を受託している県
青森県、福島県、神奈川県、石川県、岐阜県、滋賀県、京都府、和歌山県、鳥取県、島根県、香川県、愛媛県

◆調査対象県の曜日別、時間帯別、実施県数明細

	0時～	1時～	2時～	3時～	4時～	5時～	6時～	7時～	8時～	9時～	10時～	11時～	12時～	13時～	14時～	15時～	16時～	17時～	18時～	19時～	20時～	21時～	22時～	23時～	年間日数
平日	7	7	7	7	7	7	7	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	12	12	12	12	8	248
土	7	7	7	7	7	7	7	7	1	3	3	3	3	3	3	4	4	4	7	12	11	11	11	8	48
日	7	7	7	7	7	7	7	7	1	5	5	5	5	5	5	5	5	5	7	12	11	11	11	8	49
祝日・年末年始	7	7	7	7	7	7	7	7	1	4	4	4	4	4	4	4	4	4	6	12	11	11	11	8	21
平均県数	7.0	7.0	7.0	7.0	7.0	7.0	7.0	7.0	0.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.4	1.4	1.4	4.9	12.0	11.7	11.7	11.7	8.0	366

※平均県数:上記各時間帯・日別対象県数に、平日・土・日・祝の年間日数比率を乗じて算出

【2】調査結果(概略)

◆時間帯による特徴

① 相談は、19時をピークとして準夜帯に集中している。
② 救急対応が必要な事案は、その他時間帯に比べ、深夜帯に多い。
③ 土日祝日の昼間に相談を実施してる自治体は多くない(本調査では12県中4～5県)が、土日祝日の午後から夕方にかけても、救急対応が必要な事案が増える。

◆相談内容における特徴

① 不安の強い保護者への対応に、時間がかかるケースが稀に発生する。
② 119番案内を実施した相談の内、約4分の1は、対応科目や近隣に案内先医療機関が存在しないケースであった。
③ 保護者が不満感を明示する最も多い事例は、希望診療科目、希望地域で診療可能な医療機関が存在しなかったケースであった。

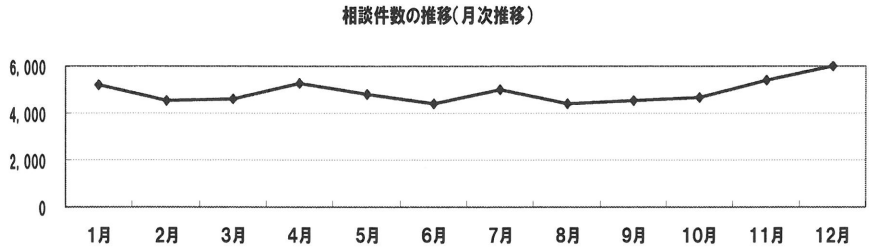
3.調査結果と考察 2

【3】調査対象となった相談の詳細

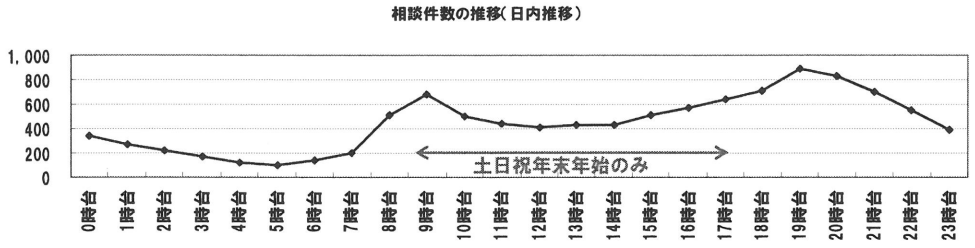
①相談件数の推移

調査対象期間（**2012年1月～12月**）における、全調査対象県の1時間あたりの相談件数を、人口100万人単位に換算した総相談件数は**58,864**件であった。
月次の推移を見ると、1月・4月・7月・11月・12月に相談件数の増加が見られた。
また、1日の件数推移を見ると、18時から23時にかけての準夜帯のニーズが最も高い傾向が見られた。

【月次変化】



【日内変化】（人口規模100万人の架空県の1日推移をシミュレーション：時間帯推移を、各時間帯の平均県数で除して算出）

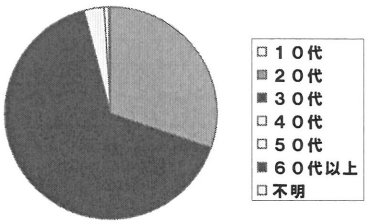


3.調査結果と考察 3

②相談者のプロフィール

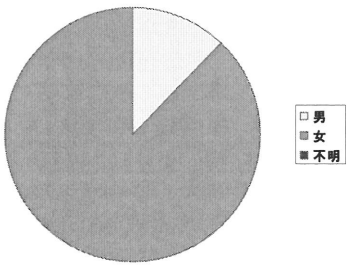
相談の電話をかけてくるのは、20代～30代の女性、すなわち相談対象者の母親が8割強を占めており、この傾向は、相談時間や相談時期による変動が見られず、全体的な傾向となっている。

利用者のプロフィール（年代）



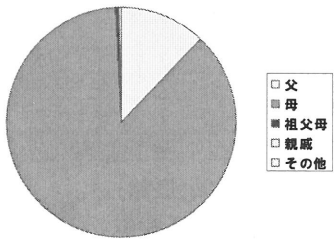
	年代比率	
	10代	0.0%
	20代	30.4%
	30代	65.7%
	40代	3.2%
	50代	0.3%
	60代以	0.4%
	不明	0.0%

利用者のプロフィール（性別）



	男女比率	
	男性	12.2%
	女性	87.8%
	不明	0.0%

利用者のプロフィール（続柄）



	続柄比率	
	父	12.1%
	母	87.0%
	祖父母	0.7%
	親戚	0.1%
	その他	0.1%

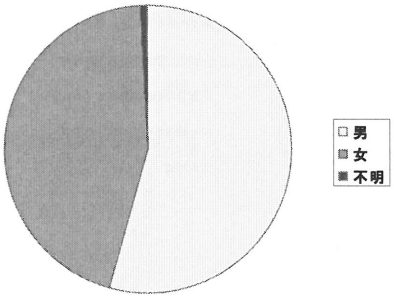
3.調査結果と考察 4

③相談対象者のプロフィール

相談対象者は、年間を通じて、及び一日を通じて男児が女児を僅かに上回る傾向が見られた。総務省の人口統計(平成22年)によると、15歳未満の男児人口が51%と若干男児が多いが、男児に関する相談件数比率は、人口比を上回っていた。

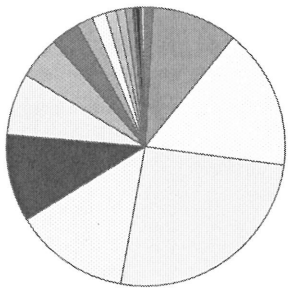
また、月例・年齢分布については、1～2歳未満児の相談が最も多く、次いで6ヶ月～1歳未満、2～3歳未満となった。この傾向も性別同様時間や時期による大きな偏りはみられなかった。

対象者のプロフィール(性別)



	男女比率
男	54.2%
女	44.9%
不	0.9%

対象者のプロフィール(年齢)



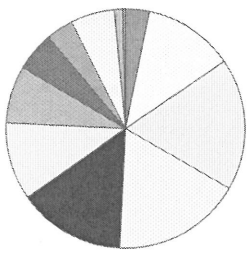
1ヶ月未満	1.0%
1～6ヶ月未満	9.8%
6ヶ月～1歳未満	16.3%
1～2歳未満	25.7%
2～3歳未満	13.2%
3～4歳未満	10.3%
4～5歳未満	7.4%
5～6歳未満	4.9%
6～7歳未満	3.4%
7～8歳未満	2.1%
8～9歳未満	1.6%
9～10歳未満	1.2%
10～11歳未満	1.0%
11～12歳未満	0.7%
12～13歳未満	0.5%
13～14歳未満	0.4%
14～15歳未満	0.3%
15～16歳未満	0.1%
その他	0.2%

3.調査結果と考察 5

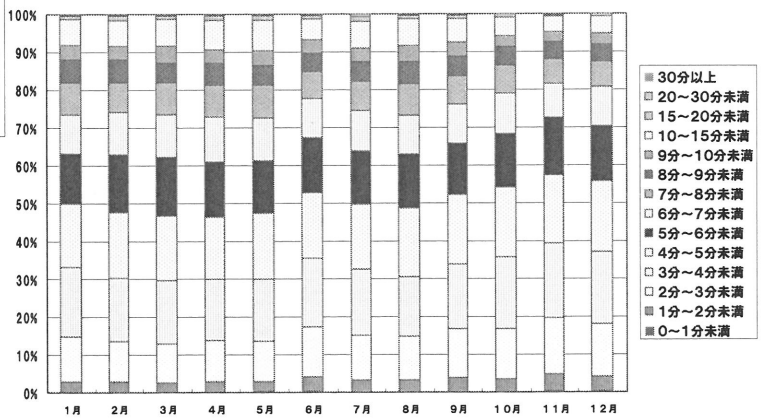
④相談時間について

所要相談時間は、全体の約8割強が、2分間～8分間で終了している。
月による大きな変動は見られないが、深夜に比べ日中の相談が若干長くなる傾向が見られる。

【相談時間分布】



0～1分未満	0.1%
1分～2分未満	3.3%
2分～3分未満	12.2%
3分～4分未満	17.6%
4分～5分未満	17.6%
5分～6分未満	14.5%
6分～7分未満	10.6%
7分～8分未満	7.7%
8分～9分未満	5.2%
9分～10分未満	3.6%
10～15分未満	6.3%
15～20分未満	1.0%
20～30分未満	0.3%
30分以上	0.1%

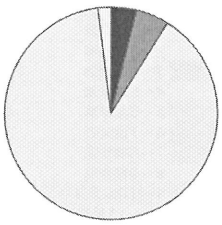


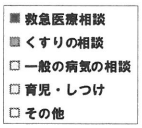
3.調査結果と考察 6

⑤相談内容と回答内容の分布

小児救急電話相談として入る電話は、保護者の気持ちとしては全て「救急の相談」であるが、その中で当初の相談内容を看護師相談員が「救急」と捉えた相談は、全体の3.9%だった。 また一般的な病気の相談は、くすりの相談を含め、94.2%であったが、緊急性を伴わない回答（翌日の医療機関を進めた、一般的な保険指導・育児指導）は、82.6%であった。

【相談内容分布】

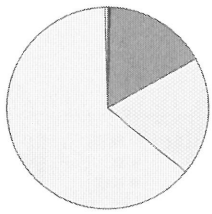


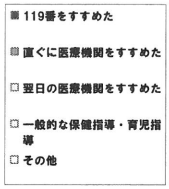


救急医療相談	3.9%
くすりの相談	4.9%
一般の病気の相談	89.3%
育児・しつけ	1.8%
その他	0.1%

緊急性を伴わない相談＝94.2%

【回答内容分布】





119番をすすめた	0.4%
直ぐに医療機関をすすめた	16.4%
翌日の医療機関をすすめた	19.0%
一般的な保健指導・育児指導	63.6%
その他	0.6%

緊急性を伴わない対応＝82.6%

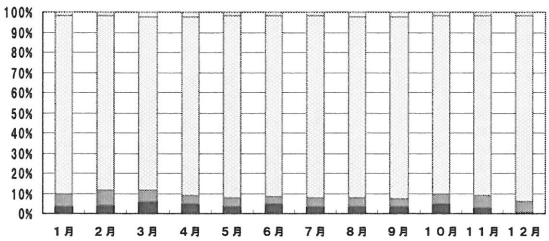
3.調査結果と考察 7

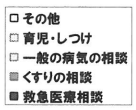
⑤相談内容と回答内容の分布

〈1〉月次推移

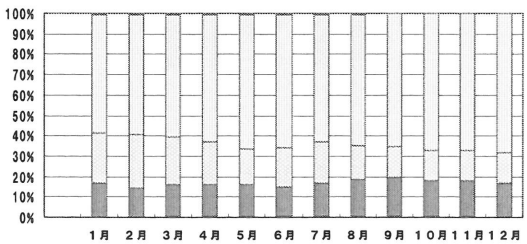
相談内容、回答内容ともに、月次推移には大きな変動は見られなかった。

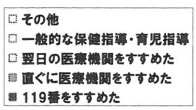
【相談内容の月次推移】





【回答内容の月次推移】





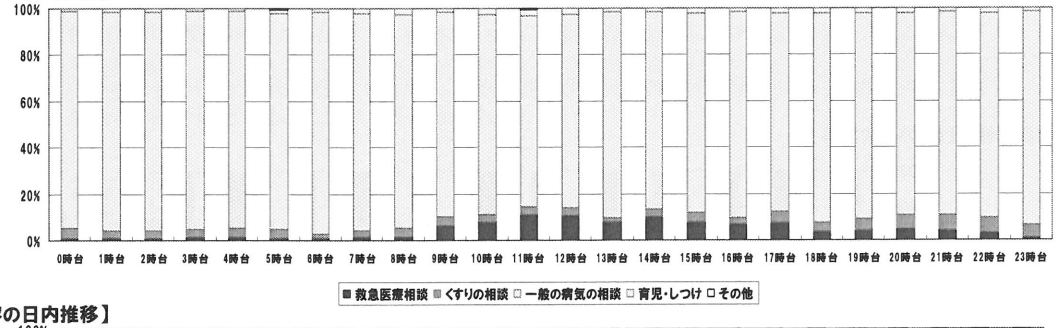
3.調査結果と考察 8

⑤相談内容と回答内容の分布(日内推移)

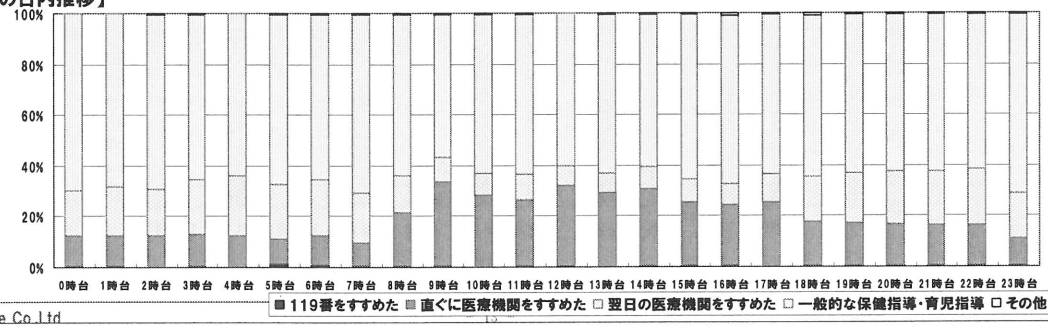
〈2〉 日内推移

救急の相談比率が、日中9時から17時にかけて増加し、その傾向とリンクして同時間帯にすぐに医療機関をすすめる回答の比率が上がっている。

【相談内容の日内推移】



【回答内容の日内推移】



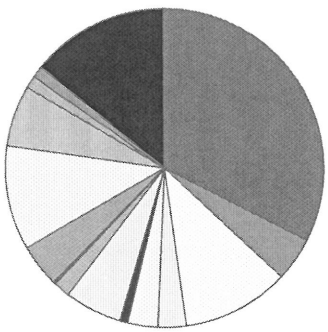
Dial Service Co.,Ltd

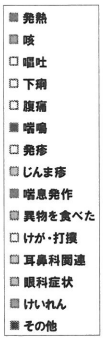
3.調査結果と考察 9

⑥相談内容(症状)の分布

相談内容を症状別に見ると、1.発熱(32.5%)、2.消化器系症状(「嘔吐」「下痢」「腹痛」で16.5%)、3.事故(「異物を食べた」と「けが・打撲」で15.0%)で、全体の3分の2を占めている。

【相談内容(症状別)内訳】





発熱	32.5%
咳	4.6%
嘔吐	10.7%
下痢	2.8%
腹痛	3.0%
喘鳴	0.8%
発疹	5.8%
じんま疹	1.7%
喘息発作	0.4%
異物を食べた	4.4%
けが・打撲	10.6%
耳鼻科関連	5.9%
眼科症状	1.6%
けいれん	1.0%
その他	14.2%

発熱＝32.5%

消化器系症状＝16.5%

事故＝15.0%